事業所名　放課後等デイサービス虹の子ども海田

支援プログラム

作成日　令和７ 年　４ 月　１ 日

法人（事業所）理念		・褒める・認める・大事にするを主軸とします。 ・事業者は、心身に障害のある児童に対し成育を助長し、集団の中に入っていく力を身につけると共に、将来を見通し自立の促進を図ることを目的として指導訓練を行うものとします。 ・事業の提供に当たっては、障害児および利用者の意向、障害児の適性及び障害の特性その他の事情をふまえて個別支援計画を作成し、適切な支援を提供します。 ・事業の実施に当たっては、地域及び家庭との結び付きを重視した運営を行い、利用者の所在する市町村、その他の指定通所支援事業者、指定障害福祉サービス事業者、その他の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めます。
支援方針		・通常学級に通う発達障害傾向のある子ども、特別支援学級に在籍する子どもたちに、人とのかかわり方を具体的に学ぶ機会を提供します。 ・それぞれのお子さんの得意なこと、いいところを探し、他のお子さんとともに楽しめる内容の支援を提供していきます。 ・ルールのあるゲーム等を小集団でも個別でもスタッフが傍に付き、上手くいかないところや、本人が困っていることに寄り添い、本人が考えて修正していく力をつけていけるように支援します。 ・子どものペースで取り組める課題から始め、特に視覚的にわかりやすい教材を中心に、次第に他者を意識していく課題へと発展させていきます。
営業時間		9 8　時　30 30　分から　18 17　時　30 30　分まで　｜　送迎実施の有無　｜　あり　[✓ なし]
		支　援　内　容
本人支援	健康・生活	・健康に関することや日常生活のスキルに関することで、困ったことや手伝ってほしいことを表明できるように支援します。 ・自分の健康と周りの人の健康に意識を向けることができるために、衛生面についてエチケットなどの知識を学び、日常的に気を付けていくことを具体的に支援します。 ・気候に合わせた服の着用を促し、TPOに合わせた身だしなみも意識できるための学習の機会を提供します。
	運動・感覚	・子ども一人一人が求めている感覚刺激に着目し、課題等に取り組む際の集中力や持続性を高めるために有効な手立てについて、子どもと一緒に考えていきます。 ・感覚の過敏などの特性に合わせてセンサリーグッズなどを使い、気持ちや感情のコントロールを図る機会を提供します。 ・手先の操作に関し、目と手の協応や両手の協応を高めていくために、子どもの興味のある課題を提供します。 ・室内でできる姿勢保持やバランス感覚、筋力アップにつながる課題を提案し、過程においても継続できるように支援します。
	認知・行動	・情報の整理整頓に課題を持つ子ども達に対して、優先順位をつける方法などを身につけることができるよう支援を行います。 ・見通しをもって行動しつつ、自分で比較検討し、自分がやりたいことなど意思を表現できるように、必要な場面で視覚支援を行っていきます。 ・注意が移りやすく、自分のやりたいことが優先しやすい子どもに対して、どこに着目すればいいのか、誰に注意を向けたらよいのかを一緒に考える機会を提供します。 ・視力ではなく、見えにくさを引き起こしている視覚機能に着目し、見る力を育てていくためのトレーニングの機会を提供します。 ・読み書きの課題を持つ子どもに対し、その基礎的な練習となるプリント学習など、子どもが意欲的に取り組める課題を提供します。
	言語 コミュニケーション	・自分の気持ちや他者の気持ちを言語化して伝え、適切な表現方法を身につけていくことができるよう支援します。 ・言葉のやり取りに課題を持つ子どもに対し、日常的な場面を振り返る課題を提示し、子どもの見方や価値観を大切にしながら、本人の気づきを待ち、必要であれば着目箇所に丸を付けるなどして、子どもが考える機会を提供します。 ・スタッフと子ども、子ども同士のかかわりにおいて、本人の思いを適切に伝えることができるよう伝えたい気持ちを整理したり、伝え方の選択肢を示したり支援を行います。 ・学校での不安などの日常的な様々な感情を素直に語れるように、事業所を利用中は常に耳を傾けつつ、必要に応じて個別での面談（カウンセリングの機会）を提供します。 ・しゃべりたい、聞いてほしい気持ちを持って利用している子たちに対し、いつ、どこで、なにがあって、どのような気持ちだったのかを、時には視覚的に整理していく支援をします。
	人間関係 社会性	・小集団でのルールのある遊び、駆け引き、ゲームをやる上で悔しかったり、我慢したりする気持ちに寄り添い、気持ちを整理し、中断することなく取り組んで達成感を味わうよう支援します。 ・直接的なアドバイスは可能な限り控え、本人の気持ちを引き出しながら、子ども自身が考え試行錯誤することを修正し、さらに楽しめることができるように支援します。（例えば、ボードゲームでは子どもたちのとまどい、相手への協調性、自己主張する力や本人の困り感を引き出す機会として行っている。ゆっくりと気持ちの調整をする、もう一度考え工夫してみることを引き出す支援を行っている。） ・自力で来所している子に対し、時間を意識して行動することができるようにどんなことに気を付けたらよいか話をしています。

家族支援	・多くの方は送迎時5～10分かけて詳細な報告とともに、ご家族の気持ちをお伺いしています。 ・事業所内には個別面談室があり、要望があれば1時間程度お話や相談を行っています。	移行支援	保護者の希望に応じて学校に訪問し、具体的な関わり方のモデルを提案します。また、連携することで当事業所の連絡内容を相互に確認し、日々の様子を共有します。
地域支援・地域連携	・希望に応じて学校、医療機関、他事業所との連絡、調整に努めます。 ・発達障害の専門家である医者と常につながっており、学校に訪問するなどの関係機関との連携に必要な準備は整えています。	職員の質の向上	・定期的な職員研修を実施しています。 ・外部講師を招いて0JTおよびケースカンファレンスを月に数回行っています。
主な行事等	・長期休暇（夏休み、冬休み、春休み）などに不定期のイベントを実施しています。		
エピソード・コラム	・間違い探しやパソコンのマウスの操作など、「比べる」「よく見る」「目で追う」といった様々なビジョントレーニングを重視しています。頭を動かさずに目を上手に動かすことや目と手の協応の力、すばやく目を動かすといった力が向上していくことで、視野（見える範囲）が広がり、なかなか周囲の状況に気づきにくかったお子さんが、相手の表情をみて配慮したり、ルールを守ろうとしたり、場面の空気を読み取ろうとしたりすることが増えました。 ・工作や調理などを自己表現の活動としてとらえて重視しています。子どもの興味や関心を聞き取ったうえで、「作ること」に取り組み、説明をよく聞き、細かい作業にも一人で挑戦しています。例えば、慎重に粉や牛乳を量ったり、鍋から具材が飛び散らないように混ぜたりするなどの加減ができるようになりました。そうした積み重ねにより、自信もつき、いろいろな役割を担いたい気持ちが生まれたり、協力しようとしたりする意識につながっています。 ・相手の思いを聞き入れにくく、思い通りにならないと混乱してしまう子どもたちがいます。仲良く遊びたいのに、勝ち負けにこだわり、じゃんけんだけで涙が出てしまう子は利用し始めたころには多くいます。大人との個別的な関りから始めて、次第に仲間と一緒に活動できるように、心理的な支援をし、最後まで大きな混乱なく取り組めることを重視しています。勝ち負けにこだわらずに遊べたり、「負けるのが嫌なんよね」と自分の気持ちを言葉にして出すことができるようになったり、友達から励まされて最後までやり切ろうとしたりする経験は、自信につながり、自分を好きになる機会となってるようです。 ・小集団で過ごす場ですが、多くの場面で個別に対話する機会を作っていくことを重視しています。自分の思っていることや、悩んでいること、悲しかったこと、ちょっと聞いてほしい話など、子どもから話せるように配慮しています。結果として、利用期間が長くなるほどに、「おしゃべりな子」になっています。日中のストレスなどを発散する機会となり、しばらく頑張ってみようという気持ちにも結びつくようです。自分の気持ちを上手く伝えられないお子さんには、そのお子さんが使いやすい言葉を選びながら、視線や表情での訴えを読み取り、やりたいことが叶えられることを大切にしています。		